

特集

磯部琇三氏の功績

水野孝雄（東京学芸大学）

1. はじめに

磯部琇三氏は、昨年(2006年)12月31日に逝去した(享年64歳)。磯部氏は10年ほど前から「肝臓の特異な病気で、いずれ癌になって死ぬんだ」と言っていた。冗談ではないと思いつつも日頃の元気さからは信じられなかった。しかし、残念ながら現実のものとなってしまった。

磯部氏は1942年に大阪で生まれたが、大阪人からも「磯部さんは、いい加減さがなく大阪人らしくない」と言われていた。確かに体格の良さと日頃の発言の仕方からすると豪放磊落のように思われるが、研究室の整理も物事の進め方もきちんとしなければ気が済まないようであった。したがって、いったん方針を決めたら途中での変更は望まず、まっすぐに突き進もうとする。

磯部氏は、氏を含む“4人組”の働きによって「国内に3.5m望遠鏡建設」の計画を「国外に大望遠鏡建設」に方向転換させた。最終的にはハワイのすばる望遠鏡として結実するが、建設費等への意見の相違から磯部氏はその流れの中心から外れていた(1988年頃)。お陰で磯部氏のエネルギーは天文教育普及に向くことになる。

2. 天文教育普及への貢献

(1) 「天文情報普及室」の設置

1988年、国立天文台に「天文情報普及室」が設置され、磯部氏はその室長となった。教育関係者をはじめ、各方面からの要望に応えつつパブリック・アウトリーチの先駆けとなった。

(2) 国際天文学連合(IAU)の天文教育委員会

1988年に大脇直明氏(東京学芸大学)の定

年退職に伴い、磯部氏がIAU天文教育委員会の日本代表委員となった。さらに、2000年から2003年までは同委員会の委員長も務め、世界の天文教育にも貢献した。

(3) 「天文教育普及研究会」の設立

1988年開催のIAUによる天文教育コロキウムに向けて、日本でも研究会を開催して天文教育について討論することになった。IAU天文教育委員会の日本代表委員である大脇氏と磯部氏が中心となって全国の教育関係者に呼びかけ、1987年8月に「第1回天文教育研究会」が駿台学園高校の北軽井沢の宿泊施設で開かれた。3泊4日の合宿形式で参加者は100名を超え、夜も白熱した討論が続くという異例の研究会となった。

1989年8月の第3回天文教育研究会には150名近い参加者があり、学校教育者だけでなく、社会教育者や教育機関に属さないアマチュア天文普及家も会員となる「天文教育普及研究会」が結成された。1980年代後半からの好景気と「ふるさと創生」による1億円パラマキを主因とする社会教育施設の急増といった社会状況、そして日本の天文アマチュアの層の厚さを反映したユニークな組織が、このようにして発足した。磯部氏は、皆に推されて会長(当時は世話人代表)となった。会則に「会員数が50名未満になったとき解散する」という附則をつけたのは磯部氏らしさの現れであった。懇親会では、磯部氏の教え子たち(当時、氏は東京学芸大生や東京理科大生の何名かを託されて卒業研究指導をしていた)に勧められて余興で仮装などもさせられ、照れながらも極めて楽しそうであった。

しかし、1993年12月末をもって会長辞任を宣言した。会員は200名から500名以上に

急増しているが、それを運営する体制（特に事務局）が十分に確立されていないことと、発足当時の設立目的に対する会長と運営委員との認識に乖離が生じたことが辞任理由であった。その半年前から体調を崩し、きちんと問題に対応しきれない状態であったことも原因のようであった。

3. 理科教育への貢献

1989年に改訂された教育課程、学習指導要領が1992年に実施され、次の改訂を視野に入れた議論が始まっていた。そこでは、地学がバラバラな学問領域の寄せ集めで統一性がないとして、地学を解体するような科目編成も提言されていた。そのようなこともあり日本地学教育学会では、地学とはどのような科学(科目)であるかについて、機関誌「地学教育」で特集を組んだ。そこでは“自然史”としての地学が論じられ、磯部氏は天文分野からのアプローチを述べている(1994年)。また、地質分野の教員とともに「隕石衝突による恐竜絶滅」の講演も行っていた。

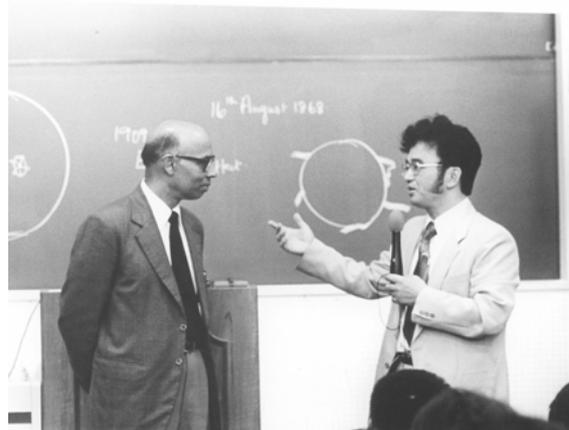
他方、磯部氏は日本学術会議科学教育研究連絡委員会に出席した機会を捉えて、物理・化学・生物・地学に関連する学会間の相互理解や相互協力のために、定期的な会合をもつことを提案し、1995年に「教科理科関連学会連絡協議会」を設立して、初代議長となった。その後、協議会が次の教育課程に向けてのシンポジウム等を開催し、文部省に提言を行った。それまで教育課程改訂に対する働きかけが理科においては弱いと言われていたが、「理科離れ」の危機もあり、活発な意見提言が行われるようになった。(地学内部での意見対立等から1998年に磯部氏はこの協議会の議長を降りることになる。)

「地球に衝突する可能性のある小惑星問題」の国際会議で誘われたことや「隕石衝突による恐竜絶滅」の講演者に加わったこともあり、

1996年に国際スペースガード財団の理事および日本スペースガード協会の会長となった。1999年からは日本スペースガード協会の理事長となり、生涯を閉じる最後まで務めた。

4. おわりに

磯部氏は、そのエネルギッシュなパワーと物おじしない行動力で、ある分野に重要な流れをつくるが、その流れに居座り続けることができない。その結果、自分の居場所を求め、自己をアピールし、別の分野でまた新しい流れをつくり続けてきた。そしてそのことが、日本の国外大望遠鏡建設につながり、また天文教育普及や理科教育の発展に貢献する団体やスペースガード協会などの継続的な活動にもつながった。磯部氏が残した好結果に感謝、感謝！



磯部氏と国際天文学連合会長バップ氏
(1984年)

水野 孝雄